



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 豊かな心の育成
- ④ 健やかな身体の育成
- ⑤ 特別支援教育の推進
- ⑥ 生徒の良さを伸ばし、課題を解決するための
「連携・協働」の推進



「VUCA」の時代に生きる

7月に入り、いよいよ1学期も残りわずかとなりました。これまでの生活を振り返り、新たな目標を見つけてみましょう。

さて、これからの社会は、あらゆるものを取り巻く環境が複雑さを増して、将来の予測が困難な状況にあることから、「VUCA（ブーカ）」の時代とも言われます。これは、4つの単語の頭文字をとった造語です。

学習指導要領では、生徒一人一人がよりよい社会と幸福な人生の創り手として必要となる力を身に付けることができるよう、「何を学ぶか」だけでなく、その内容を学ぶことで、「何ができるようになるか」（資質・能力）を示しています。

これからの社会で求められる資質・能力を、①生きて働く「知識及び技能」、②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱で整理し、各教科の目標や内容をこの3つの柱で構造化しています。これらの資質・能力を身に付け、「VUCA」の時代でも、生涯にわたって学び続けることが大切です。

私たち教職員は、生徒が「どのように学ぶか」という視点で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいます。一人一人の個に応じた、学びの過程を大切にしながら、授業力の向上に取り組んでいます。

そして、生徒も学校も、保護者の皆様や地域の皆様に支えられ、成長しています。どうぞこれからも、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

中学卒業後の進路について考えよう！

中学校では、様々な教育活動を通して、中学卒業後の進路について考えていきます。特に、3年生になると、より現実的な課題となり、自分ごととして、これから進んでいく路（みち）を考える時期を迎えます。具体的な目標が明確な人もいれば、漠然とした夢や希望はあるものの、この先の進路がなかなか描けていない人もいます。

そのような中で、目の前に迫ってきた中学卒業後の進路について、心配になったり不安になったりすることはないでしょうか。同じような気持ちを保護者の方も抱くかもしれません。中学校で行う「進路指導」は、そんなイメージを抱いている生徒（又は保護者）が“多数いる”という前提からスタートします。

私たち（教職員）の役割の一つとして、生徒に見通しを示しながら、自分自身の将来を考えていくきっかけを与えることがあります。進路に関する情報を提供し、よき相談相手でありたいと考えています。まずは、不安や心配ごとの払拭です。先生方のアドバイスを受けて、日々の取組を充実させていきましょう。

Rome was not built in a day.

また、進路を考える中学時代、家庭でも大人としての意見や経験等、これからの生き方を、我が子に伝えるチャンスではないでしょうか。よき相談相手として、我が子と一緒に悩み、考えていきましょう。保護者の皆様にとっても、今までの自分自身を振り返り、これからの人生を考える機会にしてください。

大人の立場からすれば「中学時代で、将来が決まってしまうわけではない」というのは、しごく当然のこととして受け止められます。私自身も教職に就く（中学教師）と決めたのは、大学時代です。自分に合った進路を選ぶのは、時間がかかるものなのです。

ただ、先の見えない子供たちにとってみると「これ（高校入試）で、すべてが決まってしまう」と思い込んでしまうかもしれません。

私たち大人は、子供たちの“自立”を促しながら、より豊かに自信をもって生きていけるよう、応援していきましょう。どのような人になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的な展望に立ち、人間形成を促す活動が「キャリア教育」であり「進路指導」の目指すところです。進路に関するご質問等、遠慮なくお知らせください。随時、学校からも情報提供をしていきます。

